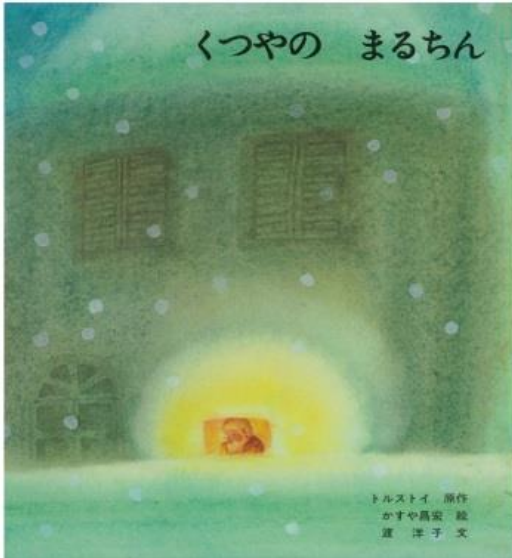


## 『くつやの まるちん』



トルストイ 原作

かすや昌宏 絵

渡 洋子 文

至光社 1981年

まるちんが待っている。

クリスマスが近づき園ではページェントの練習が始まりました。教会の暦はアドベント、過去の自分を振り返りつつキリストが再び来る日

を待ち望む期間に入りました。

クリスマスですから、トルストイの名作童話『くつやのまるちん』を紹介します。

貧しい靴職人まるちんはある冬の夜、夢の中で「あした いくから まっておいで」という声を聴き、翌日は一日中外を気にして過ごします。

「だれか まっているのですか」と問われると、「なんだか きりすとさまがおいでになるようなきがしてね」とぼんやりした答えをします。そしてその夜、だれかがいるような気がして・・・。

まるちんが聴いた声、まるちんが出会った貧しい人たち、聖書の言葉・・・“かなしい” “さびしい” 等ぼんやりした言葉がキーワードのようです。絵もどこかぼんやりしつつ、でも温かい。

人生の途上で人は必ず“悲しみ” “苦しみ” “寂しさ”に出会います。今は何もわからない子どもたちにも、そんな時が訪れます。夢の中で聴いた「あした いくから まっておいで」と言う声にすがりたくなるほど“かなしい” “さびしい” 気持ちになることがあるでしょう。

地下室に暮らす妻も子も亡くした貧しい靴職人まるちんの、たった一つの窓からぼんやりと温かい光がもれています。ぼんやりしたものが子どもたちを温めます。

どうぞお膝で読んであげてください。

クリスマスの祝福がご家庭に豊かにありますよう、お祈りしています。

2019年12月12日 梅崎 啓子